



武曾 恵理

京都華頂大学教授

日本女性腎臓病医の会 代表世話人
元公益財団法人田附興風会医学研
究所北野病院腎臓内科部長、同研
究所副所長

京都府立医科大学 WLB 支援セン
ターみやこ CC “えん” 顧問

—あゆみ—

- ・ 1992年 京都大学講師
- ・ 2001年 公益財団法人田附興風会医学研
究所北野病院腎臓内科部長
同研究所副所長（兼務）
- ・ 2003年 京都大学医学部臨床教授（兼務）
- ・ 2005年 日本腎臓学会男女共同参画委員
会設立（初代委員長）
- ・ 2006年 北野病院女性医師支援委員会設
立 委員長
- ・ 2010年～2016年 日本腎臓学会 理事（企画委員
会/男女共同参画委員会担当）
- ・ 2018年～ 京都華頂大学教授
- ・ 2019年～ 日本女性腎臓病医の会 代表世
話人

—主な賞歴—

- ・ 2023年 第55回日本女医会吉岡彌生賞

京都に生まれ育った武曾氏は、京都府立医科大学を卒業後、京都大学腎臓内科で専門医となった。フランス留学から帰国後、京都大学において腎臓部問唯一の女性責任教官として臨床、研究、教育を担当し、独立独歩で模索しながら研鑽を重ねた。「一緒に苦勞してくれる気概のあるスタッフが集まってきてくれたこと、指導した学生たちが立派な専門医となって各病院や大学で活躍していることが、大きな喜び。」と目を輝かせる。

基幹病院の部長・研究所副所長の要職に就くと、出産や育児のためキャリアの中断を余儀なくされる女性医師のため、自ら率先して男女共同参画委員会を立ち上げ、病児保育の開設やキャリア継続のための制度改革に惜しみなく力を注いだ。こうした取組は、看護師やメディカル全体のシステムとしても認知され、退職者の減少や就職希望者の増加につながったことは喜びだったと当時を振り返る。

所属する日本腎臓学会においても、他の学会に先駆けて2006年に男女共同参画委員会を立ち上げ、自身も二代目の女性理事としてガバナンスへ参画するとともに、出産育児等により専門医への道を閉ざさないことを学会全体の姿勢とし、専門医制度の改革等女性医師のキャリアアップ支援に大きく貢献した。腎臓内科医としての功績に加え、日本女性腎臓病医の会における若手女性医師のキャリア支援の継続した活動が評価され、第55回日本女医会吉岡彌生賞受賞の栄に浴した。

管理栄養士養成大学の医系教授として活躍を続ける現在は、教鞭を執る傍ら、若い医師たちと勉強を続けながら腎生検の病理診断に携わるなど患者さんに向き合う姿勢を今なお保ち続け、ロールモデルとして後進の女性医師を導く。

「専門部門に突出するものの、責任ある地位に就くことを躊躇する女性医師がいる。専門部門の追求には常に貪欲で、ガバナンス能力の開発、さらに周りへの啓発を目指して能力を伸ばしてほしい。そのためには、男女を問わないメンターや先輩方へ支援を要請してほしい。」という。また、「どの分野でも、女性がさらに活躍し、ガバナンス能力がアップすることで、多方面からのアイデア、力の発揮がなされ社会全体の豊かさに繋がると確信している。男女共同参画もアイデアは既に出ているので、トップから実践を進めてほしい。」と熱い想いを語る。